

令和4年度登録販売者試験問題

群馬県

(令和4年9月6日 第二部)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。
- 2 この試験問題は問61から問120までです。解答は、解答用紙の「マーク例」にならって、解答欄の解答番号を1ヶ所ぬりつぶしてください。指示された方法以外での記入や、1つの問題に複数解答した場合には、その問題の解答は無効になります。
- 3 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消しあとが残らないようにプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておいてください。
- 4 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者については、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 5 退室する際には、解答用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従ってください。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができます。

主な医薬品とその作用（40問）

【問 6 1】 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a かぜはウイルス（ライノウイルス、コロナウイルスなど）の感染が原因で、細菌の感染は原因とはならない。
- b 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
- c かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものではなく、咳で眠れなかつたり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図る対症療法薬である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	誤
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	正

【問 6 2】 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

2 カプセル中	
イブプロフェン	200 mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	1.75 mg
ヨウ化イソプロパミド	2.5 mg
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	24 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	30 mg
無水カフェイン	37.5 mg

このかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a イブプロフェンは、消化管粘膜の防御機能を低下させるため、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎又はクローン病の既往歴がある人では再発を招くおそれがある。
- b ヨウ化イソプロパミドは、抗コリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合されている。
- c デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物は、延髄の^{がいそ}咳嗽中枢に作用して、^{せき}咳を抑えることを目的として配合されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	正	誤	正

【問 6 3】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるものに適すとされるが、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい等の理由で、胃腸虚弱で冷え症の人には不向きとされる。

- 1 ^{いんちんこうとう}茵陳蒿湯
- 2 ^{ばくもんどうとう}麦門冬湯
- 3 ^{とうきいんし}当帰飲子
- 4 ^{ちやうとうきん}釣藤散

【問 6 4】 アスピリン（別名アセチルサリチル酸）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アスピリン喘息^{ぜん}は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分では起こらない。
- b アスピリンには、血液を凝固しにくくさせる作用がある。
- c アスピリンは、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	正	正

【問 6 5】 眠気を促す薬及びその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 飲酒とともにブロモバレリル尿素を含む催眠鎮静薬を服用すると、その薬効や副作用が減弱されるおそれがある。
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩などの抗ヒスタミン成分を含有する医薬品を服用後は、自動車の運転等、危険を伴う機械の操作に従事させてはならない。
- c 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
- d 酸棗仁湯^{さんそうにんとう}は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているため、1週間位服用して症状の改善がみられない場合でも、1ヶ月位服用を継続する必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 6 6】 カフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 脳の緊張を低下させることで、眠気防止の効果をもたらす。
- b 摂取されたカフェインは、乳汁中に移行しない。
- c 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして200 mg、1日摂取量はカフェインとして500 mgが上限とされている。
- d 反復摂取により依存を形成するという性質がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 6 7】 鎮^{うん}暈薬（乗物酔い防止薬）及びその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 乗物酔い防止薬には、主として吐きけを抑えることを目的とした成分も含まれるため、つわりに伴う吐きけへの対処として使用することが推奨されている。
- b ジフェンドール塩酸塩は、日本においては専ら抗めまい成分として用いられている。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く持続時間が短い。
- d 脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として、ジプロフィリンが配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 6 8】 次の表は、ある小児鎮静薬に含まれている成分の一覧である。

60 粒中	
ジャコウ	3.0 mg
ゴオウ	12.0 mg
レイヨウカク	30.0 mg
牛胆	12.0 mg
ニンジン	112.8 mg
オウレン	60.0 mg
カンゾウ	60.0 mg
チョウジ	9.0 mg

この小児鎮静薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジャコウは、緊張や興奮を鎮め、また血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- b レイヨウカクは、ウシ科のサイカレイヨウ（高鼻レイヨウ）等の角を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮める作用等を期待して用いられる。
- c カンゾウは、他の医薬品や一般食品等にも広く用いられているため、購入者に対して、摂取されるグリチルリチン酸の総量が継続して多くなならないよう注意を促すことが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 6 9】 次の咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含まないものはどれか。

- 1 柴朴湯 さいぼくとう
- 2 半夏厚朴湯 はんげこうぼくとう
- 3 五虎湯 ごことう
- 4 麻杏甘石湯 まきょうかんせきとう

【問 7 0】 鎮咳去痰薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コデインリン酸塩水和物は、胃腸の運動を低下させる作用を示し、副作用として便秘が現れることがある。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- c カルボシステインは、気道の炎症を和らげることを目的として配合されている。
- d トラネキサム酸は、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 7 1】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とするもので、鎮咳成分や気管支拡張成分、去痰成分は配合されていない。
- b 噴射式の液剤は、息を吸いながら噴射することが望ましい。
- c 口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身的な影響を生じることはない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	正	誤	誤

【問 7 2】 強心薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品に含有されるセソは、1日用量が5 mg を超えるよう用法・用量が定められている。
- b リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- c ゴオウは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正

【問 7 3】 コレステロール及び高コレステロール改善薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コレステロールは細胞の構成成分で、胆汁酸や副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要な物質でもある等、生体に不可欠な物質である。
- b コレステロールの産生及び代謝は、主として腎臓で行われる。
- c 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として使用される医薬品である。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問 7 4】 貧血用薬（鉄製剤）及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB₁₂の構成成分である。
- b 貧血用薬（鉄製剤）は、消化器系への副作用を軽減するために食前に服用することが望ましい。
- c 銅は、ヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

【問 7 5】 循環器用薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ユビデカレノン^{ユビデカレノン}は、コエンザイムQ10とも呼ばれ、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされている。
- b ヘプロニカート^{ヘプロニカート}は、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c ルチン^{ルチン}は、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- d 三黄瀉心湯^{さんおうしゃしんとう}は、構成生薬としてダイオウ^{ダイオウ}を含み、本剤を使用している間は、瀉下薬^{しゃげりやく}の使用を避ける必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 7 6】 婦人薬に配合される成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コウブシは、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- b モクツウは、滋養強壯作用を目的として配合されている場合がある。
- c センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- d ビタミンB₆は、血行を促進する作用を目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正

【問 7 7】 アレルギーに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫グロブリン（抗体）によって肥満細胞が刺激され、ヒスタミン等の物質が遊離する。
- b 肥満細胞から遊離したヒスタミンは、周囲の器官や組織の表面に分布する特定のタンパク質（受容体）と反応することで、血管収縮、血管透過性低下等の作用を示す。
- c アレルゲンに対して徐々に体を慣らしていく治療法を減感作療法という。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	正	正	誤
5	誤	誤	誤

【問 7 8】 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）の副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a メチルエフェドリン塩酸塩は、長期間にわたって連用した場合でも薬物依存につながるおそれはない。
- b グリチルリチン酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
- c 抗ヒスタミン成分は、排尿困難の症状がある人、緑内障の診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	誤

【問 7 9】 鼻に用いる薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ヒスタミンの遊離を抑える成分（抗アレルギー成分）は、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎^{くう}に対しても有効である。
- b リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み^{かゆ}を抑えることを目的として配合されている場合がある。
- c ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌又は溶血性連鎖球菌に対して殺菌消毒作用を示すほか、結核菌やウイルスにも効果がある。
- d アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用すると鼻粘膜の血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 8 0】 尿糖・尿タンパク検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 尿タンパク検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後の採尿は避ける必要がある。
- b 尿糖又は尿タンパクを検出する部分を直接手で触れると、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- c 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事やその他の影響で弱酸性～中性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- d 尿糖・尿タンパク検査薬は、尿中の糖やタンパク質の有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに疾患の有無や種類を判断することはできない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	正

【問 8 1】 胃に作用する制酸を目的とした配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
- b 制酸成分としてアルミニウムを含む医薬品は、透析療法を受けている人への使用を避ける必要はない。
- c 制酸成分を主体とする胃腸薬を炭酸飲料で服用することで、胃酸に対する中和作用が強まる。
- d 制酸成分は、かぜ薬や解熱鎮痛薬にも配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	誤

【問 8 2】 胃に作用する健胃を目的とした生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a オウレンは、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- b ユウタンは、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- c ケイヒは、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- d リュウタンが配合された散剤は、味や香りによる刺激が強いため、オブラートに包む等して服薬することが適切である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問 8 3】 30 代女性、胃腸の不調を訴え症状に良い漢方処方製剤はないかドラッグストアに相談に来られた。状態や症状を確認したところ体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすく、胃痛があり嘔吐をすることもある、とのことであった。次の漢方処方製剤のうち、最も推奨すべきものはどれか。

- 1 防風通聖散
- 2 葛根湯
- 3 大柴胡湯
- 4 六君子湯

【問 8 4】 腸の薬（整腸薬、止瀉薬、瀉下薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 腸内細菌のバランスを整えることを目的として、ビフィズス菌等の生菌成分が用いられる。
- b タンニン酸アルブミンは、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂）ことにより、腸粘膜を保護することを目的として配合されている場合がある。
- c 刺激性瀉下成分が配合された瀉下薬は一般に、流産・早産を誘発するおそれはない。
- d マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促すとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 8 5】 止瀉薬に配合されている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマス等のビスマスを含む成分については、海外において長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があり、1ヶ月以上継続使用しないこととされている。
- b タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれるタンパク質（カゼイン）から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- c ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、症状の改善がみられない場合、1～2週間服用を続ける必要がある。
- d ベルベリン塩化物等の腸内殺菌成分の入った止瀉薬を、下痢の予防で服用すると、腸内環境を悪化させることがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 8 6】 瀉下薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ヒマシ油は、防虫剤や殺鼠剤を誤飲した際に、腸管内の物質をすみやかに体外へ排除する目的で用いられる。
- b センナは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行するが、乳児への影響はない。
- c ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示す。
- d ジオクチルソジウムスルホサクシネート（DSS）は、腸内容物に水分を浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくする。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 8 7】 次のうち、胃腸鎮痛鎮痙薬に配合される抗コリン成分として、正しい組合せはどれか。

- a メチルベナクチジウム臭化物
- b ジサイクロミン塩酸塩
- c パパベリン塩酸塩
- d アミノ安息香酸エチル

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 8 8】 痔及び痔疾用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 痔瘻は、肛門内部に存在する肛門腺窩に糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態である。
- b カルバゾクロムは、毛細血管を補強、強化して出血を抑える働きがあるとされ、止血効果を期待して、内用痔疾用薬に配合される。
- c 局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して、熱感刺激を生じさせるカンフルが配合される場合がある。
- d 痔核は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたものである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 89】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

- 1 五積散ごしやくさん
- 2 四物湯しもつとう
- 3 黄連解毒湯おうれんげどくとう
- 4 清上防風湯せいじょうぼうふうとう
- 5 猪苓湯ちゆれいとう

【問 90】 目及び眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状改善を目的とした製品がある。
- b 1回使い切りタイプとして防腐剤を含まない点眼薬では、ソフトコンタクトレンズ装着時にも使用できるものがある。
- c アスパラギン酸カリウムは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合されている場合がある。
- d 長引く目の充血症状は、目以外の異変を含む、重大な疾患による可能性もあるため、目の充血を除去する眼科用薬を5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、漫然と使用を継続せず専門家に相談すべきである。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

【問 9 1】 次のうち、角膜の乾燥を防ぐ目的で眼科用薬に配合される成分として正しいものの組合せはどれか。

- a ベルベリン硫酸塩
- b コンドロイチン硫酸ナトリウム
- c ネオスチグミンメチル硫酸塩
- d 精製ヒアルロン酸ナトリウム

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問 9 2】 皮膚に用いられる殺菌消毒成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アクリノールは、真菌、結核菌、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示すが、連鎖球菌、黄色ブドウ球菌に対する殺菌消毒作用はない。
- b ヨードチンキは、皮膚刺激性が弱いため、粘膜（口唇等）や目の周りの殺菌消毒に使用される。
- c イソプロピルメチルフェノールは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示す。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 9 3】 肌の角質化、かさつき等を改善する配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a サリチル酸は、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- b 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善する。
- c イオウは、角質成分を溶解することにより、角質軟化作用を示す。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤

【問 9 4】 歯痛薬に使用される医薬品成分とその使用目的に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

医薬品成分		使用目的
a	セチルピリジニウム塩化物	— 齶蝕 ^{うしよく} により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断する
b	ハッカ油	— 冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺 ^{ひび} させる
c	ジブカイン塩酸塩	— 齶蝕 ^{うしよく} を生じた部分における細菌の繁殖を抑える
d	サンシシ	— 炎症を抑える

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 9 5】 喫煙及び禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ニコチン置換療法に使用される禁煙補助剤は、大量に使用することで禁煙達成が早まる。
- b タバコの煙に含まれるニコチンは、肺胞の毛細血管から血液中に取り込まれると、すみやかに脳内に到達し、覚醒、リラックス効果などをもたらす。
- c 脳梗塞・脳出血等の急性期脳血管障害、重い心臓病等の基礎疾患がある人は、禁煙する必要があるため、禁煙補助剤の使用が推奨される。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正

【問 9 6】 滋養強壮保健薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a じゅうぜんたい ぼとう十全大補湯は、胃腸の弱い人では、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- b ニンジン^{ごう}は、神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。
- c グルクロノラクトンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感^{けん}や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	誤

【問 9 7】 漢方処方製剤及び生薬製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後 3 ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- b 医薬品の販売に従事する専門家は、購入者等が、「漢方薬は副作用が少ない」などといった誤った考えで使用することを避け、適切な医薬品を選択することができるよう、積極的な情報提供を行うことに努める必要がある。
- c 漢方処方製剤を利用する場合、患者の「証」に合わないものが選択されても、効果が得られないだけで、副作用を生じることはない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 9 8】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以上で、下腹部痛があつて、便秘しがちなものの月経不順、月経困難、月経痛、便秘、痔疾じに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 りょうけいじゆつかんとう 苓桂朮甘湯
- 2 さいこけいしかんきやうとう 柴胡桂枝乾姜湯
- 3 だいおうぼたんぴとう 大黃牡丹皮湯
- 4 けいしぶくりやうがん 桂枝茯苓丸

【問 9 9】 殺菌消毒成分及びその取扱い上の注意等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- b イソプロパノールのウイルスに対する不活性効果はエタノールよりも高い。
- c 次亜塩素酸ナトリウムやサラシ粉などの塩素系殺菌消毒成分は、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、皮膚刺激性が強いため、通常人体の消毒には用いられない。
- d ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	正

【問 1 0 0】 殺虫剤・忌避剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 殺虫剤・忌避剤のうち、ハエ、ダニ、蚊等の衛生害虫の防除を目的とする殺虫剤・忌避剤は化粧品として、医薬品医療機器等法による規制の対象とされている。
- b 忌避剤は人体に直接使用され、蚊、ツツガムシ、トコジラミ（ナンキンムシ）、ノミ等が人体に取り付いて吸血したり、病原細菌等を媒介するのを防止し、また、虫さされによる^{かゆ}痒みや腫れなどの症状を和らげる効果もある。
- c ペルメトリンは、除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低い。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 医薬品の適正な使用のために必要な情報及びその提供に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、一般の生活者に理解しやすい平易な表現で記載されている。
- b 登録販売者は、購入者等に対して科学的な根拠に基づいた正確なアドバイスを行い、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。
- c 要指導医薬品は、薬剤師から提供された情報に基づき、一般の生活者が購入し、自己の判断で使用するものである。
- d (独) 医薬品医療機器総合機構のホームページには、医薬品等の製品回収に関する情報が掲載されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問102】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、1年に1回、必ず改訂される。
- b 製品の特徴については、医薬品を使用する人に、その製品の概要を分かりやすく説明することを目的として記載されている。
- c 添付文書は、実際に使用する人やその時の状態等によって留意されるべき事項が異なってくるため、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管する必要がある。
- d 一般用医薬品のリスク区分の記載は、省略されることがある。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問103】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用黄体形成ホルモンキットは、検査結果が陰性であっても確実に避妊できるものではないので、避妊目的で使用できない旨が記載されている場合がある。
- b 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」、「6歳未満の小児」等が記載されている。
- c 一般的な副作用として記載されている症状には、重篤な副作用の初期症状は含まれていない。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

【問104】 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 開封後の散剤は、冷蔵庫内で保管することが望ましい。
- b 一般用医薬品を小児に使用する場合は、夜間の急な発熱時等にすぐに使えるよう小児の枕元に置くことが望ましい。
- c 消毒用アルコールは、危険物に該当するため、その容器に消防法に基づく注意事項が表示されている。
- d 開封後の点眼剤は、変質等のおそれがあるため、複数の使用者間で使い回して早く使い切ることが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問 1 0 5】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 配置販売される医薬品の使用期限の表示は、「配置期限」と記載される場合がある。
- b 表示された「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限であり、いったん開封されたものについては記載されている期日まで品質が保証されない場合がある。
- c 1回服用量中 0.01 mL を超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量を記載しなければならない。
- d 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも保管に関する注意事項が記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	正

【問 1 0 6】 緊急安全性情報に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

医薬品、医療機器又は再生医療等製品について (a) や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、厚生労働省からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。製造販売業者及び行政当局による報道発表、(独) 医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービスによる配信 (PMDA メディナビ)、製造販売業者から医療機関や薬局等への直接配布、ダイレクトメール、ファックス、電子メール等による情報提供 ((b) 以内) 等により情報伝達されるものである。A 4 サイズの印刷物で、(c) とも呼ばれる。

	a	b	c
1	緊急かつ重大な注意喚起	1 ヶ月	イエローレター
2	一般的な使用上の注意の改訂	3 ヶ月	イエローレター
3	緊急かつ重大な注意喚起	3 ヶ月	イエローレター
4	一般的な使用上の注意の改訂	1 ヶ月	ブルーレター
5	緊急かつ重大な注意喚起	1 ヶ月	ブルーレター

【問107】 医薬品の添付文書情報等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 令和3年8月1日から、医療用医薬品への紙の添付文書の同梱は廃止されたが、一般用医薬品には引き続き紙の添付文書が同梱されている。
- b 医療用医薬品の最新の添付文書は、全て厚生労働省のホームページで公表されている。
- c 一般用医薬品の添付文書に「使用上の注意」として記載される内容は、配合成分等の記載からある程度読み取ることが可能である。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問108】 副作用情報等の収集に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の製造販売業者は、一般用医薬品の市販後においても、常にその品質、有効性及び安全性に関する情報を収集し、医薬関係者に必要な情報を提供することが重要である。
- b 登録販売者は、医薬品医療機器等法に基づき、製造販売業者が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。
- c 医薬品の製造販売業者は、医薬品との関連が否定できない感染症に関する症例情報の報告や研究論文等について、国への報告義務が課されている。
- d 要指導医薬品に関して、既存の医薬品と明らかに異なる有効成分が配合されたものについては、一定期間、承認後の使用成績等を製造販売業者等が集積し、厚生労働省へ提出する制度が適用されるが、医療用医薬品で使用されていた有効成分を初めて配合したものについては、安全性に関する調査結果の報告は求められていない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 1 0 9】 医薬品の副作用等報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 報告様式は、(独) 医薬品医療機器総合機構ホームページから入手できる。
- b 報告様式のすべての記入欄に記入しなければ報告書は提出できない。
- c 令和3年4月から、ウェブサイトに直接入力することによる電子的な報告が可能となった。
- d 複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合であっても、報告書は、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に直接接した専門家1名から提出されれば十分である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	誤

【問 1 1 0】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 副作用による疾病のため入院治療が必要と認められる場合であって、やむをえず自宅療養を行った場合も救済給付の対象となる。
- b 個人輸入した医薬品の使用による健康被害は救済制度の対象とならない。
- c いわゆる健康食品の使用による健康被害は救済制度の対象となる。
- d 医薬品を適正に使用して生じた健康被害であって、医療機関での治療を要さず寛解したような軽度なものも救済給付の対象となる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 1 1 1】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 給付請求は、健康被害が医薬品の副作用によると判断した医師が（独）医薬品医療機器総合機構に行わなければならない。
- b 障害年金の給付には請求期限はない。
- c 医療費の給付の請求期限は、医療費の支給の対象となる費用の支払いが行われたときから5年以内である。
- d 薬事・食品衛生審議会の諮問・答申を経て、都道府県知事が判定した結果に基づいて各種給付が行われる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 2】 医薬品PLセンターに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品PLセンターへの相談が推奨される。
- b 消費者の医薬品又は医薬部外品に関する苦情（健康被害以外の損害も含まれる。）の申立てに関して相談を受け付けている。
- c 苦情を申し立てた消費者が製造販売元の企業と交渉するに当たって、消費者側の立場に立ち、交渉の仲介や調整・あっせんを行い、裁判によらずに迅速な解決に導くことを目的としている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	誤
5	誤	正	正

【問 1 1 3】 一般用医薬品の安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用が発生し、1965年、厚生省（当時）より関係製薬企業に対してアンプル入りかぜ薬製品の回収が要請された。
- b 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が複数報告され、その初期症状はかぜの諸症状と区別が難しく、症状が悪化した場合には注意が必要であることから、2003年6月、厚生労働省より関係製薬企業に対して一般用かぜ薬全般につき使用上の注意の改訂が指示された。
- c 小柴胡湯による間質性肺炎に関して、1994年1月、小柴胡湯とインターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされたが、それ以降も慢性肝炎患者が小柴胡湯を使用して間質性肺炎を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996年3月、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布が指示された。
- d エピナスチン塩酸塩は、一般用医薬品の鼻炎用内服薬等に配合されていたが、2003年8月までに、用法・用量の範囲を超えた使用等による脳出血等の副作用症例が複数報告されたため、厚生労働省より関係製薬企業に対して使用上の注意の改訂等を行うとともに、プソイドエフェドリン塩酸塩（PSE）等への速やかな切替えが指示された。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 4】 医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「6. 26 国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- b 要指導医薬品や一般用医薬品の乱用をきっかけに、違法な薬物の乱用につながることもある。
- c 薬物乱用の危険性や医薬品の適正使用の重要性等に関する知識は、小中学生のうちから啓発することが重要である。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤
5	正	正	正

【問 1 1 5】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬（睡眠改善薬）は、医療機関において不眠症の治療を受けている場合には、その治療を妨げるおそれがあるため、不眠症の診断を受けた人は服用しないよう記載されている。
- b ケトプロフェンが配合された外用鎮痛消炎薬は、接触皮膚炎を誘発するおそれがあるため、オキシベンゾン、オクトクリレンを含有する製品（日焼け止め、香水等）によるアレルギー症状（発疹・発赤、かゆみ、かぶれ等）を起こしたことがある人は使用しないよう記載されている。
- c ブチルスコポラミン臭化物は、喘息発作を誘発するおそれがあるため、喘息を起こしたことがある人は服用しないよう記載されている。
- d 芍薬甘草湯は、肝臓でグリコーゲン^{しやくやくかんぞうとう}を分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病を悪化させるおそれがあるため、糖尿病の診断を受けた人は服用しないよう記載されている。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 1 1 6】 次の医薬品成分のうち、交感神経刺激作用により尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項の「次の人は服用しないこと」に次の症状のある人として「前立腺肥大による排尿困難」と記載されているものはどれか。

- 1 テオフィリン
- 2 カフェイン
- 3 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 4 タンニン酸アルブミン

【問 1 1 7】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項に記載することとされている事項とそれに関連する成分に関する組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	事項		成分
a	妊婦又は妊娠していると思われる人	ー	アセトアミノフェン
b	出産予定日12週以内の妊婦	ー	イブプロフェン
c	授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること	ー	センノシド

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	正	誤	正
5	誤	正	正

【問 1 1 8】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項の「次の診断を受けた人」に記載されている基礎疾患と、それに関連する成分に関する次の組合せのうち、正しいものの組合せはどれか。

	基礎疾患		成分
a	糖尿病	－	メチルエフェドリン塩酸塩
b	緑内障	－	イブプロフェン
c	肝臓病	－	アセトアミノフェン
d	胃・十二指腸潰瘍	－	ロペラミド塩酸塩

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 1 1 9】 次の表は、ある制酸薬に含まれている成分の一覧である。

3包中	
スクラルファート水和物	1,500 mg
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	1,500 mg
合成ヒドロタルサイト	750 mg
コウボク流エキス	0.6 mL
ソウジュツ流エキス	0.6 mL

次のうち、この制酸薬の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は服用しないでください」の項目に記載されている事項として、正しいものはどれか。

- 1 喘息^{ぜん}を起こしたことがある人
- 2 日常的に不眠の人
- 3 透析療法を受けている人
- 4 牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人

【問 1 2 0】 次の表は、ある鎮咳去痰薬がい たんに含まれている成分の一覧である。

3錠中	
ジプロフィリン	225 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	18.75 mg
ノスカピン	30 mg
ジフェンヒドラミン塩酸塩	45 mg

次のうち、この鎮咳去痰薬がい たんの添付文書の「相談すること」の項において、「次の診断を受けた人」の項目欄に記載されている事項の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 心臓病
- b てんかん
- c 甲状腺機能障害
- d 腎臓病

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤